

## 「パートナーシップセミナー」第3回 開催レポート

平成 29 年 11 月 12 日（日） 13:30～16:00

仕事と家事に加え、未知の経験である“育児”がスタートした途端、「夫婦って難しい…。どうしてわかってくれないんだろう…。」と頭を抱えてしまう人は多いのではないのでしょうか？

そんな悩みを持つ夫婦にきっかけ作りをすることで、「互いをベストパートナーと呼べる“最強のふたり”になって欲しい」という想いから開催された全3回のベストパートナー全力応援プログラム『パートナーシップセミナー』も、今回でいよいよ最終回！

### ◆第3回テーマ 主夫芸人が伝授！

泣いて笑って～ともに支えあう関係づくりのためにできる〇つのこと

講師：中村 シュフさん（主夫芸人）

#### —“主夫芸人”って何？—

まずは今回の講師である、中村シュフさんの自己紹介から！

中村さんは、1979（昭和 54）年生まれの 38 歳。高校時代の家庭科の授業中、騒いでいる男子生徒に対して先生が放った一言、「これからの時代、男性にこそ家庭科が必要なのよ！」が心に響き、大学では家政学を専攻。卒業後、お笑い芸人としてコンビを組み、2006（平成 18）年の M1 グランプリでは、約 4000 組の中から勝ち抜き、最終 50 組まで残りました。しかし、その後コンビは解散。将来の身の振り方について考えていた時に、当時お付き合いしていた彼女から、「家庭に入ってもらえませんか？」というプロポーズを受け、なんと専業主夫に！

専業主夫になるとすぐに、「元芸人が主夫とは面白い。」とラジオ番組等と呼ばれるようになり、そこから

“主夫芸人”としての活動を始められたそうです。そんな中村さんから、冒頭になぞなぞの出題が…。

Q:ある東大法学部出身の優秀な弁護士には、次郎という弟がいます。その次郎は「私の兄はフリーターです。弁護士じゃありませんよ。」と言います。次郎は嘘をついていません。どういことでしょうか？

—しばしの沈黙の後、会場から勇気あるお一人がさっと挙手。

A:弁護士はお姉さん。次郎には、フリーターの兄と弁護士の姉がいます。

➡正解！

このなぞなぞから分かるのは、人は「東大法学部出身の弁護士」と聞くとつい男性を思い浮かべてしまうという固定観念を持っているということ。世間には様々な固定観念がありますが、さて、ここでまた別の固定観念—“女性＝家庭を切り盛りする”を覆した中村さんの言うシュフって一体どういう人を指すのでしょうか？

—“シュフ”って何をする人？—

「“主婦”や“主夫”じゃなくて、シュフです！」と強調した中村さん。

シュフとは、

『性別、および結婚の有無にかかわらず家事を切り盛りする能力を発揮している人のこと。また、すべての人のなかに存在するその能力。』（定義：by 中村シュフ）を言う。

古くは“主婦権”という言葉がありましたが、中村流“シュフ権”とは、日々の生活を率先してデザインする権利のこと。つまり、シュフこそがその権利を持つ日々の生活の「Designer（デザイナー）」なのです。家庭の中で肩書がつかなくて、それも横文字の！—ワクワクしてきませんか？



### －家事の範囲って一体どこまで？－

次に全員で、「家事に入るものは何か？」を書き出すワークをしました。例えば、料理、洗濯、掃除以外にも花に水をあげる、加湿器の水を補充する、ゴミ出しをするなど全て家事に入ります。

「料理、洗濯、掃除。これは 3 大メジャー家事ですね。家計管理、育児、介護なんていうのもある。それから、家族関係を良好に保つ、ご近所との付き合いなどにも範囲は広がっていきます。更には、購入した製品に対して消費者としての立場から意見を言う、買い物やクリーニング等企业との付き合いも入りますね。しまいには、地球との付き合いも入ります。節電やリサイクルを通じて環境問題に配慮するとか。つまり、シュフの家事範囲とは、実は、『笑顔』から『地球防衛』までなんです！」と、中村さん。

「主婦はお金を稼いでいない。」とか、「主婦の労働はノーライセンスでできる無償労働だ。」などと言われ、家事は社会的に評価されにくい労働ではあります。しかし、実際シュフは、“家族”が健康で快適に過ごすための労働をしています。

家族に笑顔をもたらす親父ギャグは家事に含まれる？－答えはイエス！家族全員が笑顔になるために働いたシュフには、「ありがとう。」という言葉のお給料を渡しましょう♪



### －デザイナーのシュフが、実は大切にしていることって？－

ここで「あなたのカレーの作り方」を 5 つの枠に書き出すワークを行ったところ、どんな順序でカレー作りを進めていくのかは、人によって様々ということが明らかに。

「つまり、家事には、シュフそれぞれのオリジナルの流れがあるのです。例えば、冷蔵庫のチェックから始まり、献立を考え、買い出しをし、調理をして、笑顔で食事をした後片付けをし、再び冷蔵庫のチェック。そのオリジナルの流れをデザインしているのがシュフなのです。」と説明した中村さん。そして大切なのは、このオリジナルの流れを止めない“お手伝い”なのだそうです！（注：ここで言う“お手伝い”とは、シュフをサポートする諸々の作業のことであり、夫婦間で揉める原因となる「手伝ってあげる。」の手伝いとはニュアンスを異にしています。）果たして流れを意識した“お手伝い”とはどういうこと…！？

### －「流れ」がカギ！－

「流れ」を考えていない非シュフが家事をすると、結局はシュフが自分でデザインした流れに戻すという一手間余分な作業をすることになるんです。」と述べた中村さん。

つまり、良い“お手伝い”とはシュフオリジナルの流れをとめないちよい足し“お手伝い”なのだとか！例えば、使い終わった爪切りを元の位置に戻す、自分の予定を早めに伝える、外に干してある洗濯物を室内に入れる等がこれに該当します。ここで肝心なことは、畳み方を知らない非シュフは洗濯物を畳まないこと。な

ぜならば、畳み方が違った場合、シュフは往々にしてシュフ流の畳み方に流れを戻さなければならず、それが二度手間になるからです。

非シュフは、まずはデザインされた家事の流れを理解し、流れを乱さないちょっとした“お手伝い”から始めましょう。大事なのはオリジナルの流れを止めないことです！皆さんは、シュフの流れを止めていませんか？



### －育児は「イレギュラー家事」！？－

中村さんいわく、「育児は家事の中で最も大変なもの。やりがいはある。でも、それはとってもイレギュラー。」とのこと。育児（特に子供が小さい頃）は不測の事態の連続…そのためデザインできない難しさがあるという点で、イレギュラー家事なのだそうです。

では、非シュフはこのイレギュラー家事である育児にどう対応したら良いのでしょうか？「入社する時も、帰宅する時も、子供は寝ているから育児なんて一緒にできないよ。」と思う方は多いのではないのでしょうか？

「実は、シュフにとっては、ちよい足しの家事を“手伝って”もらえることが回り回って育児を“手伝う”ことになるんですよ！」と中村さん。パートナーの優しい態度や言葉、笑顔が、家庭内の潤滑油となり、結果としてイレギュラー家事である育児を夫婦で共に担っているという一体感に繋がるそうです。時間的に制約があっても直接子供と関われなくても、決して諦めないで下さいね！

家事には、唯一絶対の正解は存在しません。10の家族があれば、10通りの家事の仕方があっていい。また、子供の成長や仕事の状況に合わせてダイナミックに、柔軟に変化していった方がいいもの。シュフは相手（パートナー）にあの手この手で家事を伝える努力を、非シュフはそれに対して興味を持って聴く努力を続けていきたいものですね。

大切なのは夫婦間のコミュニケーションとコンビネーション。「主婦」や「主夫」は一家に一人。でもシュフは、家族内に多数存在可能。「誰もがシュフになれる！」という中村さんの言葉に会場の皆さんは、大きくうなずいていました。家族全員が健康で快適に、そして笑顔で毎日を過ごしていけるよう、「我が家のシュフを増やし、夫婦で、親子で、共に支えあえる関係づくりを目指していこう。」と心に誓ったセミナーとなりました。



## ■参加者の声

★主婦の仕事にあまりやりがいを感じていませんでしたが、「シュフ＝デザイナー」であるというお話に、「そうか！」という発見がありました。楽しいお話を聞くことができて良かったです。

★シュフさん最高に面白かったです。我が家なりの笑顔の最大化を目指したいと思います。「シュフ」という言葉が浸透してほしいです。

★家事は「笑顔から地球防衛まで」いっぱいあるので、パートナーとシェアしていきたいと思います。

★家族が仲良くすることも家事の範囲というのは、新しい気付きだった。

★夫への要望をキツくならず、笑いながら伝えられて良かったです。

★大変参考になりました。気軽に実践できそうです。

★「労力」の大小でお手伝いの価値は決まらない！！には大いに納得しました。「派手家事」じゃなくて

OK。まずは小さな家事から始めます。

(一部抜粋)